

福井大学学術交流協定校への派遣留学(交換留学)月例報告書 (1月分)

留学先大学: Chulalongkorn University

氏名: 井口 健

生まれも育ちも新潟、大学で福井と日本海側でしか暮らしたことのなかった私にとってバンコクで迎える雪のない、というよりは暑すぎる1月は時間感覚のネジが外れるほどの新鮮な経験となりました。また、この時期とはいえインフルエンザ対策で毎年マスクを着けて過ごしていましたが、今年はPM2.5対策で灼熱の中マスクを身につけなければなりませんでした。

<授業開始>

1月の第2週から授業が始まり、今期は単位互換を意識せずに興味のある分野を履修しました。一番興味があった Food and Culture は40人の募集に対し9人しか履修登録をした人がおらず最初は不安でしたが受けてみると内容はとても興味深く、少人数なので教授とみんなで対話をしながら授業を進めて行く形でとても刺激的でした。今期はPBLにも取り組もうと考えていますが、まだ抽象的な段階なのでここから実行に移せるレベルの具体的な計画まで持っていきたいと思います。

<Interact Day>

毎セメスターの始めに Interact Day という新しい留学生を歓迎するためのイベントがあります。前期に参加したときにとっても楽しかったので今期も参加しました。前回は夕方には解散だったのですが、今回は朝から夜まででコンテンツが盛りだくさんの上どれもとても濃い内容でした。さらに人数も50人くらいで前回よりも少なかったものでより色々な学生と交流しやすかったです。

<一月休み多かった>

1月の2週目から始まった授業でしたが、3週目はタマサート大学との Sports Competition があり1週間丸々休みでした。次の週休みなら授業開始4週目からでいいじゃん!と思った私のような学生もたくさんいると思いますが、同時に小中高の学期の始業式ってなぜか金曜日にいつもあったなあということを思い出して少し納得がきました。しかし、最終週の木曜日と金曜日 PM2.5 によって大学が休講になり、木曜

日に午前午後と授業がある私にとってはうれしいような、することがなく悲しいような複雑な気持ちでした。後でタイの友達に聞いたところ、毎年この時期は PM2.5 が問題になるそうですが、大学が閉鎖されたのは初めてのことだそうです。

<PM2.5>

タイでは今 PM2.5 がかなり深刻な時期で、外を歩いてもほとんどの人がマスクをしています。日本でよくみる花粉やインフル用のマスクだとほとんど防ぐことができならしく、ガスマスクのようなフィルター付きのマスクをしている人もかなりいて最初の頃はけっこう面白かったのですが最近は見慣れました。またバンコクではマスクが品切れ状態のお店もかなりあり、アユタヤに実家がある友達が週末に帰省した時に PM2.5 用のマスクをわざわざ買ってきてくれました。(フィルターは付いていない) マレーシアの友達がインドネシアの友達の前で「マレーシアの PM2.5 は大体インドネシアから来るぜ」という何とも言えない場面に先日遭遇したので、他のタイの人にこの PM2.5 はどこから来るのか聞いたところおそらくタイ国内だろうと言っていました。調べてみたところ 10 月中旬から 2 月中旬までの乾季の間、空気中に微粒子状の物質が滞留しやすくなっているためこの時期に深刻化しているらしいです。様子としては、いつもは遠くの上空が曇っているという感じですが、大学休講が決定された日は地上も曇っていました。仕事で外にいないかならなければならぬトゥクトゥクやバイクのおっちゃんは大丈夫なのか心配です。最後にこの時期にタイを訪れる人は、その日の大気汚染の深刻度レベルを教えてくれる「Air Visual」というアプリをインストールすることをお勧めします。タイの学生もこれは絶対入れた方がいいと強く勧めています。ちなみに私は基本的に朝寮の窓から見えるビル群の曇り具合で判断しています。(けっきょく外出時はマスクをつけるので分かったところでという節もある。)

<インドネシア旅行>

3 週目の休みを利用してインドネシアの高校で日本語授業のサポートとしてインターンをしている友達に会いにいきました。滞在した 4 日のうち 2 日はインターンの日だったので私も一緒に授業に参加して、発音のお手本や会話の相手をしました。授業に参加して驚いたのは、全員がめちゃくちゃ発言するということです。発言というと真面目な感じですが半分は冷やかashiです。しかしそれが当たり前になりすぎて冷やかashiされている方も「なんだよ〜」という感じで気にしている人はいませんでした。もしかしたら冷やかashiのようにマイナスと捉えるのではなく、単なるリアクションとして受け

取っているのかもしれませんが。授業態度として、特に一年生は動物園でしたが元気一杯、むしろ小学生のような感じでとても楽しかったです。海外の高校生と関わる機会はなかなかないのでとても刺激的な経験となりました。

ジャカルタの街の様子としてはインフラボロボロで綺麗に舗装された道はほとんど見ることはありませんでした。電車も長距離移動でしか使われず地下鉄は建設中ということです。そう考えると、バンコクや去年訪れたマレーシアのクアラルンプールがいかに発展をしているかということに気づかされました。しかし同時に、そのようなインフラを始めまだまだ整っていないサービスを整備する過程で雇用が生まれ加速度的に発展しているのだなとも思います。日本の約2倍の人口を誇り、2030年には日本を抜きGDP世界6位まで上がると予想されるインドネシアのポテンシャルはそのようなところにもあるのだなと感じました。



インドネシアの高校にて放課後の日本語クラブ



寮の5階にてPM2.5な朝



友達とサイクリングパークへ